

花木の切り枝促成について

豆塚 茂実・松川 時晴・小林 泰生（福岡県園芸試験場）

MAMETSUKA, S., T. MATSUKAWA and Y. KOBAYASHI: Forcing on the Blooming of the Flowering Tree and Shrub

花木の切り枝促成におけるジベレリン A₃ (GA) 処理による開花促進効果について検討し、若干の知見を得たので報告する。

1. GAの処理方法

1979年12月14日、サンシュユの切り枝を用い、第1表のとおり各区をもうけ、中温区（最低14℃）、低温区（最低7℃）の各ハウス内で処理を行なった。

第1表 GAの処理方法

処理区	処理方法
1	無処理
2	GA 250ppm散布
3	GA 25ppm浸漬
4	エスレル100ppm散布

2. 結果及び考察

第3表のように、開花は中温区では3区が最も早く、ついで、2区、1区の順となったが、4区では、ほとんどのつばみが落ち開花に至らなかった。開花は1区に比べて3区が6日程度、2区が4日程度の促進が認められた。

低温区の開花は中温区に比べて20日以上遅咲きとなったが、処理間の差は1区に比べ、中温区同様、2区、3区が10日程度早かった。2区と3区とでは開花の差は認められなかった。また、4区では中温区のように落らぬこともなく開花した。

切り枝促成におけるGAの開花促進については、高濃度液の散布処理のみでなく、低濃度液の浸漬処理についても効果があるように思われる。

3. GAの浸漬処理

1980年2月13日、サンシュユとヒュウガミズギを用い、第2表のとおり各区をもうけて処理を行った。

4. 結果及び考察

サンシュユではGA処理区はすべて、1区よりわずかに早くなったが、GA処理の各区については差が認められなかった。12月の処理にくらべて2月の処理では、GA処理の効果が少なかったが、このことは、すでに2月では自然開花期に近く休眠から離脱していたためと考えられる。

ヒュウガミズギでは第4表のように、開花は6区が最も早く、ついで、5区、4区、3区の順となったが、2区は3区と同程度となった。1区は最も遅く、6区に比べて1週間程度の遅れが認められた。

低濃度液の浸漬処理については長時間ほど効果が高かったが、さらに、実用的処理としてGAの濃度、時間、及び時期別の処理方法について検討する必要がある。

第2表 GAの散布及び浸漬処理

処理区	処理方法
1	無処理
2	GA 200ppm 散布区
3	GA 20ppm 2時間浸漬区
4	GA 20ppm 4時間浸漬区
5	GA 20ppm 6時間浸漬区
6	GA 20ppm 8時間浸漬区

第4表 ヒュウガミズギの切り枝促成におけるジベレリン処理の促成効果

処理区	1区	2区	3区	4区	5区	6区
開花日	2.27	2.25	2.25	2.23	2.21	2.20

第3表 サンシュユの切り枝促成におけるジベレリン処理の促成効果

処理区	中温区					低温区				
	開花日	開花数	脱苞数	つばみ数	落らぬ数	開花日	開花数	脱苞数	つばみ数	落らぬ数
1	1.10	48	61	29	—	2.12	0	64	16	—
2	1.6	81	65	19	—	2.1	48	12	2	—
3	1.4	51	54	9	—	2.1	34	28	6	—
4	—	—	26	34	79	2.12	4	90	24	—

※開花日以外については各区とも1月30日調査